

2020（令和2）年度実施卒業生調査分析結果

このまとめは、本学独自に実施した卒業生調査の結果と一般財団法人大学・短期大学基準協会が全国45の短期大学の卒業生9,560名を対象に実施した卒業生調査の結果を比較分析したものである。

【調査の対象】

全国対象者：45短期大学9560名の卒業生（短大卒業後1・3・5年目のいずれか）

本学対象者：2020（令和2）年3月卒業から過去3年538名の卒業生（短大卒業後1・2・3年目）

【調査実施時期】

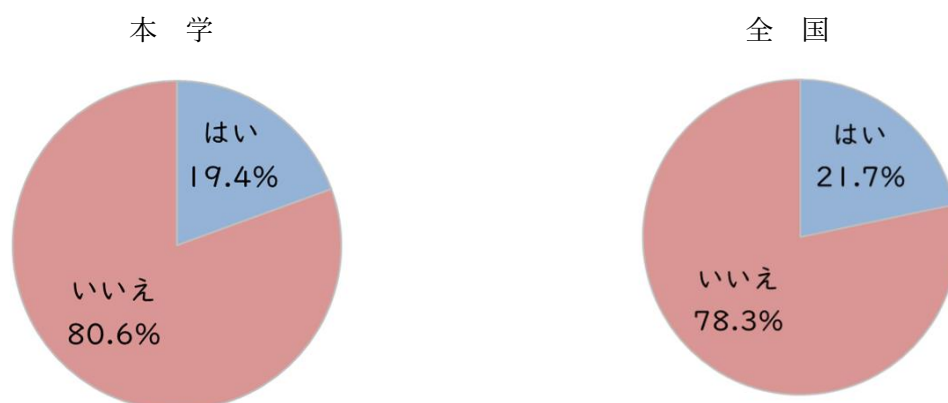
全国：2020（令和2）年7月下旬～8月末日

本学：2021（令和3）年1月

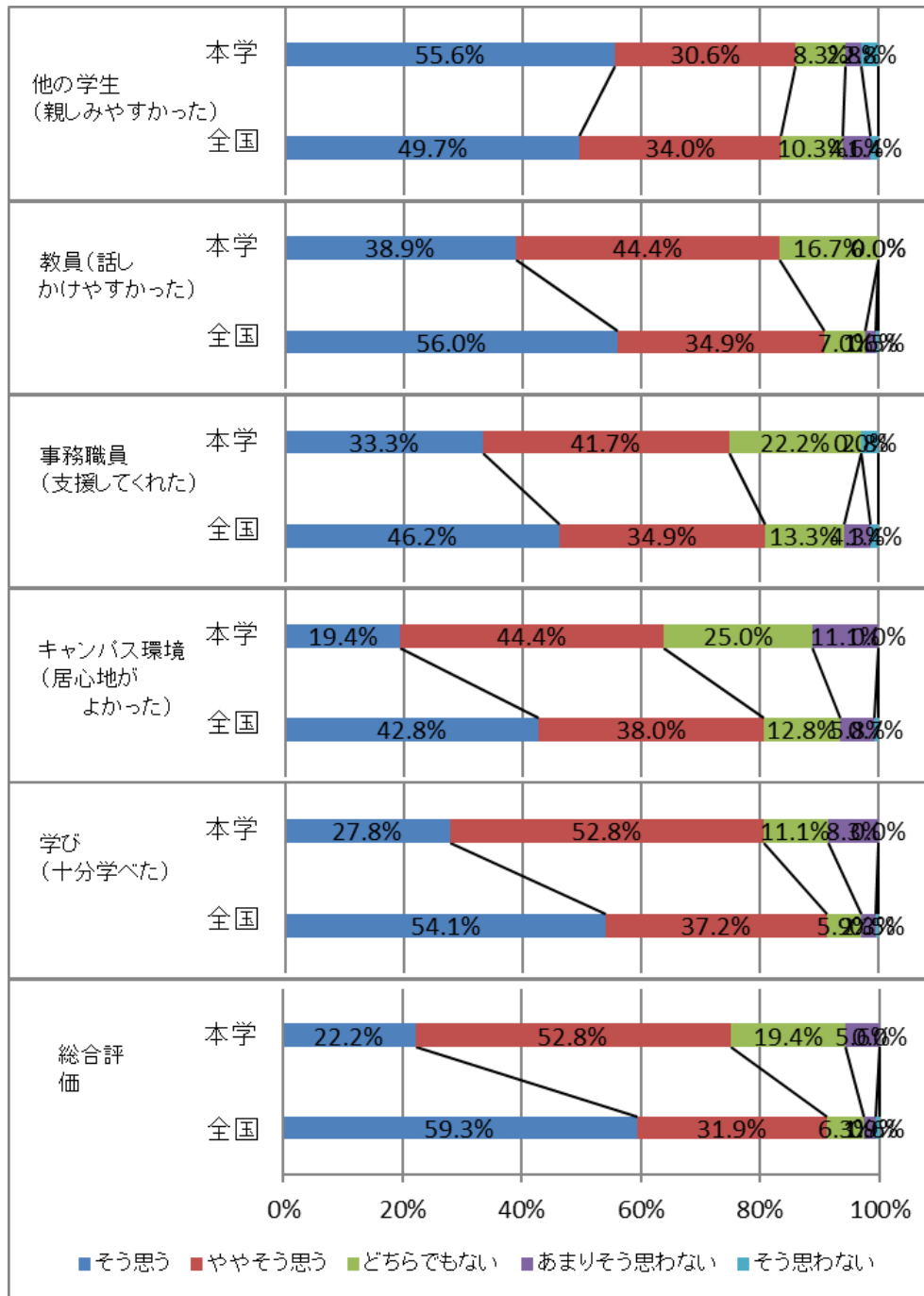
全国と本学を比較すると、回答率において、全国平均20.2%に対し本学は6.7%にとどまった。実施時期にも課題があったと考える。卒業してからも本学の教育成果の可視化に協力を依頼し、教育内容充実に資することができるよう在学中から卒業後も継続的に働きかけていきたい。

1.卒業直後の就職先から転職（あるいは退職）されましたか。

全国調査においては、卒業直後の就職先と同じ勤務先との回答が78.3%、本学では80.6%と全国に比して若干ではあるが、職場定着率が高かった。今後は、本学独自に実施している卒業生の就職先調査とも比較し、定着率と定着者の評価を明示していきたい。

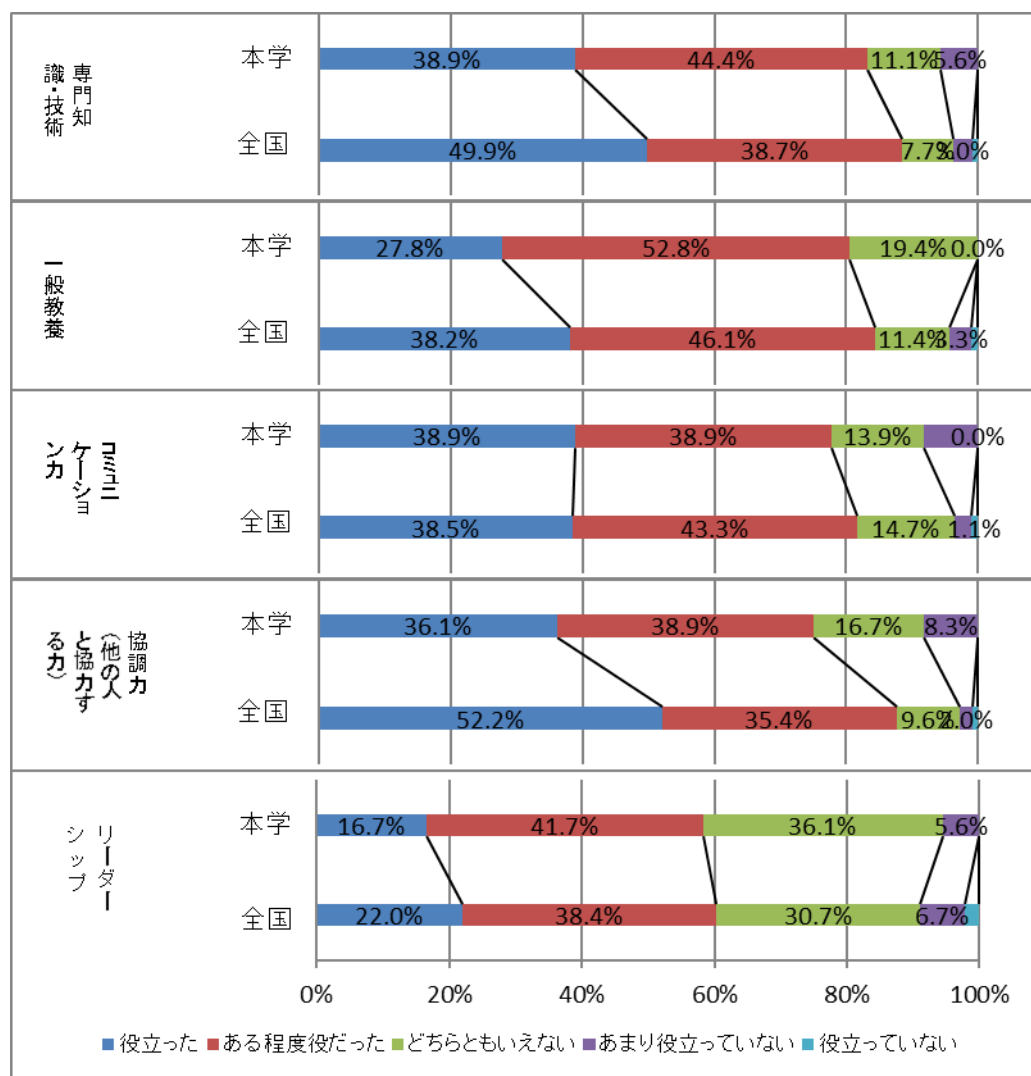


2.本学（出身短期大学）の評価をお聞きします。該当するものを1つ選んでください。
 全国調査に比べて「そう思う」「ややそう思う」の評価割合が低く、特に、「キャンパス環境（居心地がよかった）」の項目において「そう思う」が20%を下回った。図書館や自習スペースなどの強化が必要であり、物理的なスペースよりもむしろ、楽しく集える場所・定期的に教職員からアドバイスを受けることができる時間の設定・グループ学習の支援、などのソフト面を強化する方向で改善していきたい。



3.本学（出身短期大学）で学んだことはどの程度役にたっていますか。

全国調査に比して、「役立った」「ある程度役だった」を合わせた肯定的評価の傾向は類似しているものの、「役立った」の確定回答が下回っており、今後も継続して教育効果を測定していきたい。



【総合まとめ】

以上1～3の区分にて全国調査と比較したが、定量的分析には母体数が圧倒的に不足している。本学独自調査においては、次の

- ① 現在の職場でのやりがいやうれしかったエピソード
- ② 現在就業上でさらに力をつける必要があると実感している事項
- ③ 本学への要望や後輩へのアドバイス

3点の任意記述を求めたところ、①では、「短大でレポートのまとめ方を学び、職場で実行したときに褒めていただいたことです。又、短大から字を綺麗に書くように心がけた所、綺麗に字が書けるようになり、努力して良かったと感じました。」などをはじめ本学での教育

成果を実感している声が多く寄せられた。また、②では現在の在學生への教育内容充実に資すべき貴重な意見が寄せられた。③ではコロナ禍で自身も困難が多いなか、後輩への励ましのエール、学年をまたぐ交流の増加要望、さらなるキャリアアップのための学びの相談なども寄せられた。回答数が少ないのは残念であったが、今後も継続し、本学の教育成果の可視化に一層努めるとともに、定量的データのみならず一つ一つの意見を大学全体で共有し、教育力向上に役立てていきたい。